



発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

源宗寺「木彫大仏坐像」保存修理事業

市指定有形文化財「木彫大仏坐像（平戸の大仏）」の第 2 期修理が令和 5 年 8 月 4 日無事に完了し、同日、薬師如来坐像の頭部に源宗寺本堂再建・仏像修復工事の寄附者名簿が奉納されました。寄附者名簿は、細川紙技術保持者である内村久子氏が漉いた重要無形文化財「細川紙」に墨書し、漆芸家・牧野麗氏作製の「乾漆蒔絵飾箱」に納めて奉納されました。

その後、同年 11 月 4 日には、入仏開眼式が執り行われ、平成 31 年から始まった足掛け 5 年に及ぶ源宗寺本堂再建並びに木彫大仏坐像（平戸の大仏）の修理事業が、無事完了しました。これまで、地元平戸地区や源宗寺護持会を中心に、産官学が一丸となって、源宗寺保存修理委員会を結成し、当事業を進めてきました。委員会役員をはじめ、本堂の再建を手掛けた大島工務店並びに仏像の調査・修復を担当した吉備文化財修復所、その他ご協力いただいた大勢の技能者、事業者の方々、そして、沢山の寄附を賜りました大勢の方々の思いが、100年、200年の時を超えて後世の人々に継承されることを念じて止みません。

令和 6 年度も、毎月第 1 日曜日（8 月を除く）、第 3 日曜日の午前 10 時～12 時の時間帯で、一般公開を行う予定です。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。（山川愛）



寄附者名簿



乾漆蒔絵飾箱



寄附者名簿奉納の瞬間

古代祭祀体験イベント

令和 5 年 11 月、国史跡「^{はら かん がいせきぐん} 幡羅官衙遺跡群」を構成する西別府祭祀遺跡で古代祭祀体験イベントを開催しました。本遺跡は、当時の水辺の湧泉祭祀場跡で、7 世紀から 11 世紀にかけてのおよそ 400 年の間、祭祀が行われていました。

今回のイベントは、その祭祀を当時の天平衣装を職員が着用し、祭祀も推測のもと実施しました。祭祀には、地域の子供たちにも参加してもらいました。これは、史跡の重要性を認識してもらうことで、今後の遺跡の周知、保存管理に関心を持ってもらうことを期待してのものです。

古代祭祀で実際に行われたのは^{せきせいもそうひん} 石製模造品、墨書土器の投げ入れですが、今回は特殊水溶紙（人、勾玉、馬形等）に子供たちに願い事を記入してもらい、祭祀場（堀）へ投げ入れました。子供たちからは、「身近にこんなすごい遺跡があるなんて知らなかった」「貴重な体験ができた」などの感想をもらいました。今後は、このようなイベントを継続してできるよう計画していきます。（腰塚）



小学生による祭祀イベント風景

市内遺跡発掘情報

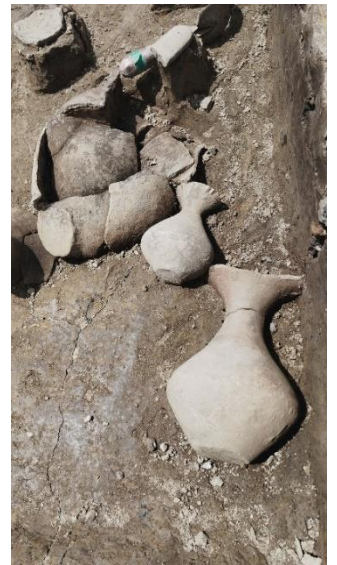
令和5年度上之土地区画整理地内遺跡発掘調査

上之区画整理事業地内では、今年度は前中西遺跡で2か所、諏訪木遺跡で3か所の発掘調査を実施しています。前中西遺跡では2か所とも弥生時代中期後半～末の竪穴建物跡が確認され、うち1軒からは生活に使ったであろう土器などが100点以上も見つかりました。1軒でこれほどまでに使用することは通常考えにくいことから、周辺の建物跡とともに廃絶時に、まとめて投棄したことが考えられます。なお、出土した土器からはベンガラ（酸化した土中の鉄を主成分とする赤い塗料）が内部に入った状態の小型壺が1点見つかりました。本市では、類例もなく、全国的にも貴重なものであることから、今後注目されます。

また、諏訪木遺跡では、これまでに10条以上もの溝跡が確認されました。それらは時期差はあるものの、主として15世紀前後で、中世にこの地域で活躍していた成田氏がこの周辺に陣を構えていたことから、それらに関連する遺構と捉えられます。溝跡からは、古河公方系のかわらけが入れ子状のまま出土したことから、傍で饗宴などを行った跡なのでしょうか、当時をうかがい知ることができる貴重な資料です。（腰塚）



入れ子状のかわらけ



竪穴建物跡の弥生土器出土状況

令和5年度西別府遺跡の確認調査

令和6年1月末から2月中旬にかけて、市内西別府に所在する西別府遺跡の確認調査を実施しました。西別府遺跡は、熊谷市と深谷市の境に所在する古代の郡役所『国史跡「幡羅官衙遺跡群」』に関連する遺跡であり、郡に付属する寺院であった西別府廃寺と祭祀場であった西別府祭祀遺跡の間に位置しています。

今回の調査地点は、遺跡範囲北東端に位置し、約712㎡を測る調査対象区内に幅3m、長さ9mのトレンチを東西南北に各2本計4本を設定し、調査を実施しました。その結果、いずれのトレンチも中・近世の土坑やピットが多数確認されましたが、東側に設定した2本のトレンチでは、古代の溝跡が確認されました。この溝跡は、本遺跡東側に所在する西別府廃寺の区画溝と思われる、寺院の範囲を考える上で大変貴重な成果を得ることができました。（松田）



西別府遺跡確認調査作業風景

連載 くまがやの古墳群

⑳ 桜谷東古墳群 ーかつて桜谷の谷と呼ばれていた台地東先端部に造営された古墳群ー

桜谷東古墳群は、大里地区の青山、荒川右岸の江南台地東南端にかつてあった、荒川の低地に面した標高40m前後を測る台地に所在していた古墳時代中期以降に造られた古墳群と考えられます。

ちなみに、本古墳群の北には、古墳時代後期の円山古墳群（本連載㉔）が所在します。

発掘調査では、円墳1基及び方墳カ1基が確認されましたが、調査後削平され消滅しています。

第1号墳の円墳は、周溝を含めた直径が約19.6mの規模で、その周溝からは5世紀後半～末頃（古墳時代中期。ただし、5世紀末頃を古墳時代後期と考えることもあります。）の須恵器甕が出土しています。

一方、方墳とも考えられる第2号墳は、一辺約13.8mを測る規模で、調査時点の報告では方形周溝墓とされているもので、この周溝内からは古墳時代中期の埴が出土しています。この出土遺物から当該期の方墳ではないかと考えましたが、他にも所在した可能性がある古墳から混入したとも考えられ、はっきりしません。（吉野）



第1号墳全景

◇第16回地域伝統芸能今昔物語

令和5年11月23日(木・祝)、熊谷文化創造館さくらめいと太陽のホールを会場に、第16回地域伝統芸能今昔物語を開催しました。今回は、伝統芸能を次世代に継承することを目的に、無形民俗文化財保存団体の7団体・一般芸能7団体、賛助出演1団体、計15団体があり、児童生徒を始めとした多くの若手の出演がありました。

また、今年度は4年ぶりに観客を入れての開催となり、779人の来場者が鑑賞しました。なお、当日収録した映像は、記録保存するとともに、動画共有サイト「YouTube」で公開配信を行っています。(山川愛)



「手島八木節笠踊」 手島楽友会

◇埼玉伝統芸能フォーラム

令和6年1月21日、深谷市の渋沢栄一記念館・八基公民館体育館にて、県主催による「埼玉伝統芸能フォーラム」が開催されました。今回のフォーラムでは、「獅子舞」をテーマに、その保存継承及び後継者育成等の取組について事例発表が行われ、熊谷市は、市の無形民俗文化財に指定されている「池上獅子舞」を中心に、市内の獅子舞のコロナ禍の活動状況について発表を行いました。本市からも多くの伝統芸能関係者が参加され、参加者にとっても、他地域の伝統芸能の活動状況を知る良い機会になったようです。(山川愛)



(提供：埼玉県文化振興課)

◇市政宅配講座での池上遺跡の講義

11月10日(金)・17日(金)、中央公民館において、市政宅配講座「熊谷の弥生・古墳時代を知りたい」を開講しました。この講座では、令和2年度から3年間発掘調査を実施した市内池上に所在する池上遺跡について講義しました。本遺跡は、弥生時代から奈良・平安時代にかけての著名な遺跡ですが、発掘調査は、(仮称)道の駅「くまがや」整備事業に伴うもので、弥生時代の新たな集落跡の発見や古墳時代前期の河川跡及び集落跡などが発見されました。土器などを持参しての講義では、受講者の皆さんが、水辺のほとりの集落の変化から古代の暮らしに思いをはせていたようです。(大野)



【文化財探訪ーある力士の記録ー】

大幡の代地区、関東脳神経外科病院西側の集落西端、民家の生け垣の樹間に、背の高い石碑が立っています。南側の農道に向く正面には「鯨力長五郎霊神奥津所」の文字が大きく刻まれ、側面にはこの碑の由緒が次のように記されています。

「力士鯨力通称長五郎は、文政8年(1825)大里郡代村に生まれた。江戸に出て大関玉垣に弟子入りし、技術を高めて幕下に至り、大いに名声を揚げた。明治4年(1871)正月に47歳で没したが、明治34年(1901)秋に追善興行を行い、この墓石を建てて記念とする。」

石碑は、親族によって建てられましたが、力士が現代以上に花形であった時代に、身内から江戸で活躍する力士が出たことへの誇りが感じ取れます。そしてこれは、熊谷市出身の力士について記録した文化財とも言えます。

なお、この碑は、郷土史家の日下部朝一郎氏によって「新編熊谷風土記」(昭和38年刊)でも取り上げられています。(山川守)



文化財コラム 謎の風習「盃状穴」(はいじょうけつ)

盃状穴とは、石に掘られた「さかずき状」の窪(くぼ)み穴(φ3～10 cm程)で、国内各地の寺社等の石造物(石灯籠・供養塔・手水鉢、台石、石橋等)に散見されるものです。

これは、信仰の対象物として造られた石造物に対し勝手に穴を掘る不謹慎とも思える行為で、主に江戸時代から大正時代にかけて造られた石造物に対して掘られています。またこれは、当時流行った風習と考えられていますが、どのような風習に基づくものであるかは、解明されていません。

穴を掘った理由には、

- ①子どもが、よもぎなどの植物を入れてつぶして遊んだ穴、
 - ②形状から生殖と子孫繁栄への願いを込めて掘られた穴、
 - ③穴に溜まった雨水を、身体の悪い箇所に塗ったり飲んだりすると治るという信仰に基づき掘られた穴
- 等が考えられています。

わずか100年程前までに行われていた全国的な風習が、どのようなものか分からないとは意外です。何か秘匿性の高い特別な呪術儀式に関わるものか、わざわざ記録するまでもないたわいもない民間風習だったのか。忘れ去られた「盃状穴」。

情報をお持ちの方は、江南文化財センターまでご連絡をお願いします。(森田)



葛和田・神明宮手水鉢



成沢・赤城神社地蔵尊台石

マニアックな文化財メモー江南文化財センター所蔵資料の出張ー

令和5年7月～8月に開催された「二子山古墳と祈りの器」(埼玉県立さきたま史跡の博物館)では、鎧塚古墳^{とむら}出土の土器(県指定文化財)を、同年12月～令和6年2月に開催された「^{いれすみ} 弔いのかたちー墓から探る群馬の弥生時代ー」(かみつけの里博物館/高崎市)では、前中西遺跡や諏訪木遺跡の管玉、土偶、土器をそれぞれ貸出しました。諏訪木遺跡の竪穴建物跡から出土した「土偶形容器」(弥生時代中期末)は、ほぼ完全な形で出土しており、県内では初めての例です。この土偶形容器からは、耳のピアス穴、ネックレス、顔の刺青、腕輪など、熊谷に居住した弥生人の様子をうかがい知ることができます。(小島)



諏訪木遺跡出土
の土偶形容器

編集後記

市指定有形文化財「木彫大仏坐像」(平戸の大仏)を擁する源宗寺は、檀家55軒、無住職、しかも宗教法人としての法人格も無い寺院です。そのような状況の中で、何とか文化財収容施設としての本堂を建て替え、仏像を修復するため、寺院・檀家という枠組みを超え、地元事業者、自治会、熊谷市、立正大学等で修理委員会を組織して取り組んできました。

事業完遂にあたり、ご協力頂きました立正大学仏教学部の秋田貴廣教授から、愛染堂から続く熊谷市のこのような取組を「初めて見る光景」「仏像の継承にかかわる者にとっての希望」と評していただきました。誠に光栄なことです。ご協力いただきました大勢の皆様に対し心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。(山川愛)



発行：令和6年3月15日(2024/3/15)

熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係)

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話：048-536-5062 FAX：048-536-4575 メール：c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

HP：「熊谷デジタルミュージアム」<https://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

ブログ「熊谷市文化財日記2」、熊谷市観光・文化財ナビゲーションアプリ「くまここ」更新中